

SCNXユースケース集

SCSK株式会社

ITインフラサービス事業グループ netXデータセンター事業本部
セキュアコネクトサービス部

【ユースケース①】SCNX:ハイブリッドクラウド最適化

マルチクラウド接続サービス「SCNX」で、クラウドリフトできないオンプレミスの基幹系サーバーと、パブリッククラウドを併用したハイブリッドクラウド構成を最適化

課題

① 効率的なクラウド接続ができていない

- クラウドリフトできないオンプレミス基幹系サーバーと各クラウドサービスとの接続は、クラウドサービス毎にネットワークの調達・設定を実施、ネットワークの運用・管理の効率が低下

② データ保護と柔軟性の両立が困難

- クラウドリフトできないオンプレミス基幹系サーバーと各クラウドサービスとの接続は、クラウドサービス毎にネットワークの調達・設定を実施、ネットワークの運用・管理の効率が低下

③ クラウド投資とその効果が最適化できていない

- 各ビジネスニーズに合ったクラウドリソースの利用により、運用コストを削減し、ビジネスにおける生産性を向上させることができるよう適切なリソース管理が不可欠

解決策

① 効率的なクラウド接続

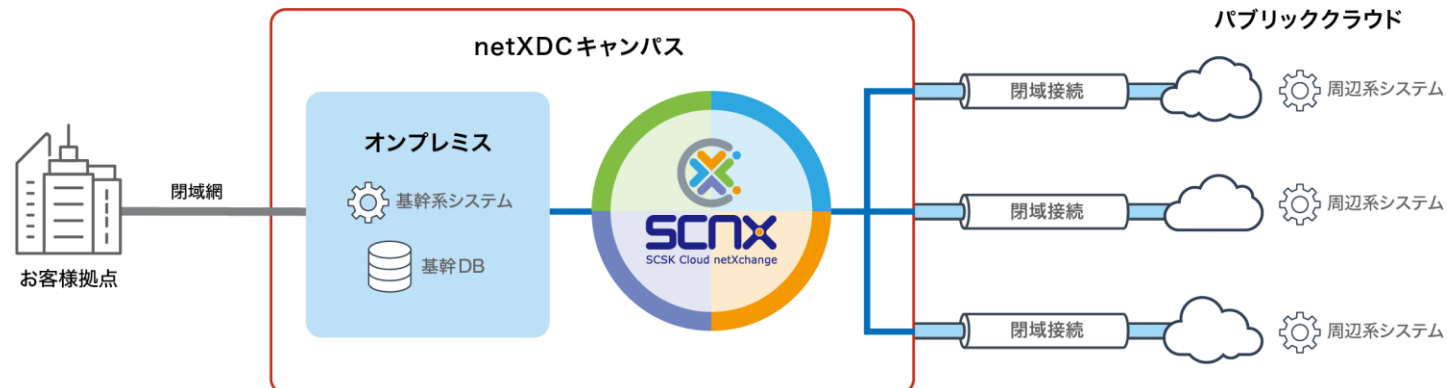
- SCNXの導入により、オンプレミスと複数クラウド環境のシームレスな閉域接続が可能となり、ITインフラ管理が簡素化され、ネットワーク構成もSCSK NETWORKのコンサルティングサービスで最適化

② データ保護とビジネス柔軟性の両立

- SCNX利用で、オンプレミスとパブリッククラウド間を閉域接続し、高セキュリティを維持しながらパブリッククラウドを安心して利用可能。データ保護とビジネスの柔軟性を両立

③ クラウドコスト削減しつつサービス品質を向上

- SCNXで各ビジネスニーズに合ったクラウドリソースを選定、コストを意識した効率的なリソースの利用を実現。これにより、運用コストの削減とサービス品質の向上が可能



【ユースケース②】SCNX:マルチクラウド実現

同一キャンパス内に主要クラウドへの接続点を持つマルチクラウド接続サービス「SCNX」で、低遅延・広帯域・低コストなマルチクラウド環境を実現

課題

① ネットワーク構成が複雑化

- 各パブリッククラウドの特徴と利点を生かしたシステムを構成しているが、クラウド毎に異なる接続方式(インターネットVPN、専用線)などが入り混じり、ネットワーク構成が複雑化

② 高額な接続コスト

- パブリッククラウド毎に異なるネットワーク経路で接続しているため、ネットワークのランニングコストが増大

③ システム間連携で通信遅延が発生

- パブリッククラウド間の通信が自社WANでの折り返し通信になっており、クラウド間で分かれたシステム間連携時に通信遅延が発生



解決策

① マルチクラウド環境をシンプルに構成

- 例えば、アプリケーションをAWSに、データベースをOCIに、WebサーバーをAzureに配置するような環境も、同一キャンパス内に主要パブリッククラウドへの接続点があるため、シンプルに構成可能

② ランニングコストを大幅に削減

- 同一キャンパス内に主要パブリッククラウドへの接続点があるため、クラウド毎に必要な接続コストを大幅に削減可能。複数のクラウドに接続するほど、お得に利用できる料金体系を提供

③ マルチクラウドの通信遅延を低減

- 同一キャンパス内でパブリッククラウド間を折り返し接続できるため、LAN感覚で使える通信速度を安定的に確保可能



【ユースケース③】SCNX:小売業の夜間バッチ処理を大幅に短縮

SCNXを活用しAWS-OCIのマルチクラウド接続で、小売業の夜間バッチ処理時間の短縮を実現

課題

①AWSとOCI間の通信遅延が発生

基幹システムのあるAWSとデータベースが有るOCI間の通信遅延(レイテンシー)が課題。原因はAWSとOCIのクラウドPoP間のNW距離が長く、経路も複雑化していることに起因

②通信フレームサイズの制限

一度に転送できるフレームサイズは通常のネットワークでは最大1518バイトに制限されているため、大容量のデータ転送を伴う夜間バッチ処理においてスループットの低下が発生し遅延の一端に

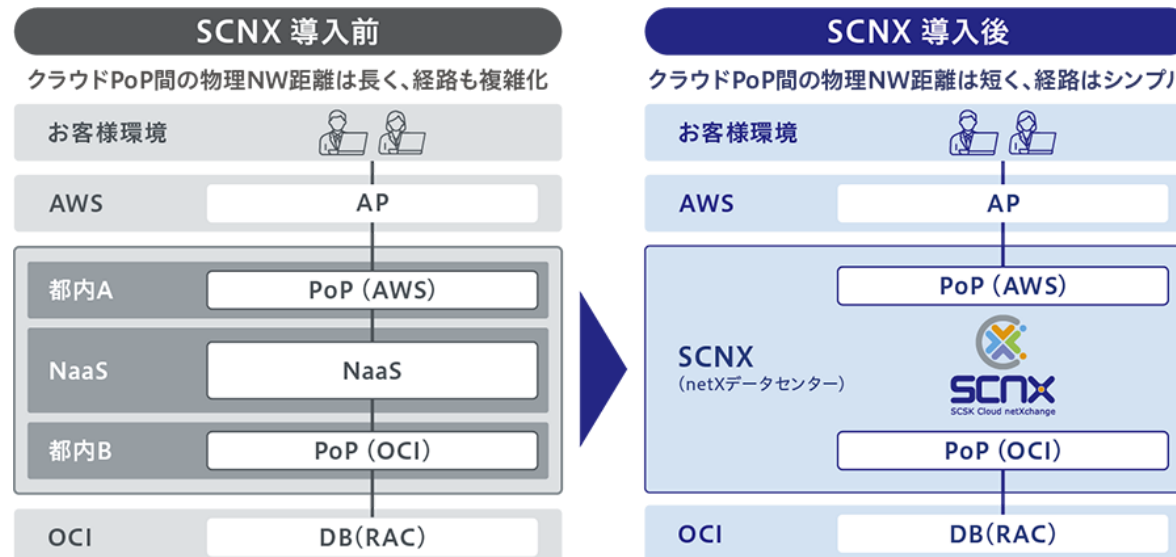
解決策

① 現行のマルチクラウド環境を「SCNX」へ変更

NaaSからSCNXへ変更することで、AWSとOCIを同一拠点内(SCSK印西キャンパス)で利用可能となり、マルチクラウド間のレイテンシーを大幅に短縮

② ジャンボフレームでスループットを向上(※)

SCNXによる最大9000バイトのフレームサイズデータ転送の実現
※ジャンボフレーム:イーサネットにおける一度のデータ転送単位(フレーム)サイズを大きくし、通信効率を向上させる機能。この機能に対応するマルチクラウド接続サービスはSCNXのみ(当社調べ)



【ユースケース④】 SCNX:クラウド間の動画・映像素材管理コスト最適化 SCSK

SCNXによるAWS-OCI間の動画・映像素材大容量データ転送の遅延・高コスト解消

課題

① 大容量データ転送の遅延

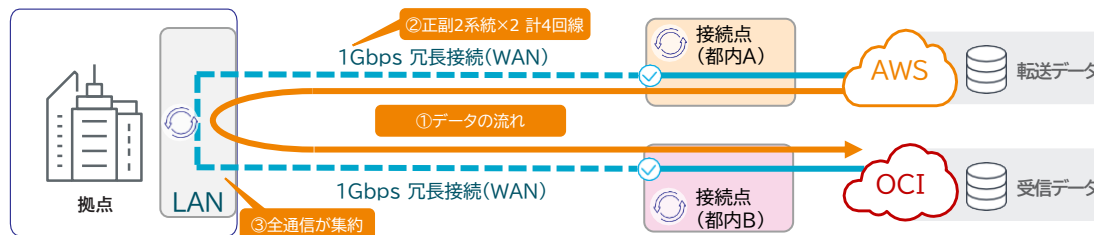
AWSと比較してストレージコストの低いOCIへの動画・映像素材データ保管移行に伴う、大容量データ転送時における低速・高遅延転送

② 高額な通信・回線コスト

- パブリッククラウド毎に異なるネットワーク経路で接続、ネットワークのランニングコストが増大

③ LANで通信遅延発生

AWSとOCIの通信が拠点LAN経由の折り返しとなるため、LANがボトルネックになり、大量データ転送処理時にネットワーク遅延や通信に問題が発生



解決策

① SCNXで高速・低遅延転送

SCNXによるAWS-OCI間の構内接続と構内での折り返し通信を活かした大容量動画・映像素材の安定した高速・低遅延転送

② ランニングコストを大幅に削減

- 同一キャンパス内にAWS及びOCIの接続点があるため、クラウド毎に必要な接続コストを大幅に削減

③ LANフリー転送で遅延解消

SCNXの同一キャンパス内接続により、WAN経由の拠点LANでの折り返し通信が不要、AWSとOCI間をLAN感覚で低遅延接続。ネットワークのボトルネックを解消



SCSK

夢ある未来を、共に創る。